



多感覚リアリティ、感性、質感等に関する 俯瞰的調査 公募説明会

2026年7月8日

イノベーション戦略センター デジタルユニット

1. 背景

- 近年、AI、XR(AR、VR等)、ハプティクス等の進展により、人間の視覚・触覚・聴覚などの複数の感覚の組み合わせ(多感覚)に基づく「**多感覚リアリティ**」の生成及び認識に関する技術が急速に発展している。
- さらに、物体の「**質感**」や人の「**感性**」といった感覚的な能力も、生理・神経反応(心拍、脳波等)や非言語的反応(声色、表情等)、潜在行動(視線、滞在時間等)に係るデータ蓄積とAI技術により、計測あるいは推定することが可能となりつつある。
- こうした技術は、従来の情報処理や画像認識の枠を超え、人間の**知覚・行動・価値判断**に直接作用する「**体験**」そのものを設計・制御する基盤技術として注目されている。
- 本技術領域は、製造業における技能伝承、医療・リハビリテーション、XRを活用した教育・訓練、コンテンツ産業における没入体験創出など、多様な産業分野に波及する可能性を有する。
- 一方で、多感覚統合、感情・認知モデル、感覚刺激の生成、実世界データ統合といった複合的技術が必要であり、技術確立のためには長期間かつ大規模な研究開発およびデータ基盤整備が求められる。

2. 目的

- 本調査では、2040年頃に社会実装が見込まれる、多感覚リアリティの生成・認識技術及び感性、質感等を中核とする技術領域について俯瞰的な調査を実施する
- 1)革新性、2)将来性、3)優位性、4)民間のみでの実施困難性、5)経済安全保障上の重要性の5観点からの分析や、**MFTロジックモデル**[1]に基づく構造化を通じて、今後、**フロンティア領域**[2]として優先的に取り組むべき具体的な技術領域を特定することを目的とする。

[1] MFTロジックモデル：https://www.nedo.go.jp/activities/tsc_activity.html

[2] フロンティア領域：将来的なポテンシャルが大きい一方で、技術開発や市場の不確実性といったリスクの高さ、巨額の研究開発設備投資の必要性などの理由で、国としては重点投資していきたいにもかかわらず、個社だけでは投資が進みにくい領域。

3. 調査の内容

- (1)対象技術領域の整理と調査分析
- (2)評価軸に基づく分析、評価
- (3)成果物の作成

(1)対象技術領域の整理と調査分析(1/2)

①対象技術領域の整理

以下の対象技術領域の相互関係や包含関係を含めて整理した上、対象技術領域の範囲を設定する。整理結果はNEDOとすり合わせの上、合意を得ること。

- 多感覚リアリティの生成・認識技術(例:多感覚統合、リアリティ生成、AIとの融合)、
- 感性や質感の計測・予測技術を構成する各種要素技術(例:XR、ハプティクス、感情AI、生成AI、センサ等)
- 人間からの多様な入力(例:五感に係る計測情報、生理・神経反応、非言語的行動等)技術や人間への出力技術
- 感性・認知モデリング技術
- 整備すべきデータ基盤や感性利用技術
- 感性デジタルツインの構築技術

(1)対象技術領域の整理と調査分析(2/2)

②俯瞰的調査分析と優先的に取り組むべき技術の特定

対象技術領域において、以下(A)～(G)の調査分析を実施し、当該技術領域の革新性、優位性、将来性や経済安全保障の重要性の観点から、調査対象とした領域においてフロンティア領域の開発対象となりうる技術領域候補リスト(3件以上)を作成する。

- A) 国内外の特許・論文動向分析
- B) 国内外のプロジェクト調査
- C) 有識者等へのヒアリング
- D) 市場分析(例:XR市場、感情AI市場等)と国際比較等
- E) 技術ロードマップ分析、技術進化や技術融合分析(例:AI・XR・ハプティクスの融合)や社会課題起点分析による有望技術の抽出
- F) プレイヤー分析(大学・研究機関・企業)
- G) デュアルユースの可能性分析

- 上記①、②においては、既に実施中の国家プロジェクトをリスト化した上で、開発対象や技術成熟度の面でそれらと実質的に重複する技術を原則として除外する。
- ただし、技術が重複する場合についても、既存プロジェクトでは十分に扱われていない新たな視点や政策的に検討すべき意義が認められる場合には、NEDOと協議の上で、例外的に対象技術として扱うことを妨げない。

(2) 評価軸に基づく分析、評価

(1)の各技術領域候補(3件以上)について以下①～⑤の5観点での詳細な分析・評価を行い、説明資料(PPT形式、1枚程度／観点)に取りまとめるとともに、NEDO等と協議の上、優先的に取り組むべき技術領域(1件以上)を絞り込んで特定する。

- ① 革新性(例:多感覚統合およびリアリティ生成の新規性等)
- ② 将来性(例:市場成長性および社会需要等)
- ③ 優位性(例:日本のコンテンツ、感性、製造技術の優位性等)
- ④ 民間のみでの実施困難性(例:長期研究、データ統合の必要性等)
- ⑤ 経済安全保障(例:次世代HMIおよび訓練基盤としての重要性)

なお、本業務は既存のInnovation Outlook資料(Ver.1 増補版、分冊(デジタル分野))[3]を確認の上、新規追加あるいは既存の記載を更新する形で作成することを想定する。

[3] Innovation Outlook Ver1.0 増補版:https://www.nedo.go.jp/activities/tsc_activity.html

(3)成果物の作成

これまでの調査分析、評価結果を踏まえ、(2)で絞り込んだ技術領域について以下を整理した報告書を作成する。

(1技術領域あたりWord形式及びPPT形式、それぞれ20枚、30枚程度(図表、参考文献込み))

- ① **解決すべき社会課題**(例:高齢化、技能伝承、体験価値創出等)
社会課題、当該課題が解決されていない理由(障壁)について、専門用語を使わず簡潔にまとめること。
- ② **取り組むべき技術領域**
概要、領域の選定理由と緊急性(なぜ今取り組むのか)、領域を取り巻く状況、技術領域が提供する価値(例:リアリティ、体験価値向上)、5観点に基づく評価等についてまとめること。
- ③ **技術領域の課題とそれを解決する技術**(例:多感覚生成技術、認識AI、XR等)
バリューチェーン分析等により支援すべき技術課題を特定し、主要プレイヤー(大学、研究機関、企業)、デュアルユースの可能性についてまとめること。
- ④ **研究開発プロジェクト構想**
到達目標・進捗評価の設計(技術課題毎想定マイルストーン、技術—経済分析に基づくアウトプット目標)及び必要な予算・期間等についてまとめること。
- ⑤ **社会実装シナリオ**
社会実装の絵姿、戦略、ロードマップ、想定されるリスク等についてまとめること。

4. 調査期間、予算金額、報告書の提出期限等

調査期間

NEDOが指定する日から2027年3月31日まで

予算

1,200 万円以内

報告書

提出期限: 2027年3月31日

提出方法: NEDOプロジェクトマネジメントシステムによる提出

記載内容: 「成果報告書・中間年報の電子ファイル提出の手引き」に従って、作成の上、提出のこと。

<https://www.nedo.go.jp/itaku-gyomu/manual.html>

5. 報告会等の開催

中間報告(11月頃)および最終報告(3月頃)を実施すること。

6. 応募要件

以下の(1)から(3)までの**全ての条件を満たすこと**のできる、単独ないし複数で受託を希望する企業・大学等とします。

※国立研究開発法人から民間企業への再委託又は共同実施は、原則認めておりません。

※複数での受託を希望する場合は、**それぞれの役割を提案書に明記**してください。

(1) 当該技術又は関連技術の調査実績を有し、かつ、調査目標達成及び調査計画遂行に必要なとなる組織、人員等を有していること。

(2) 委託業務を円滑に遂行するために必要な経営基盤、資金及び設備等の十分な管理能力を有し、かつ、情報管理体制等を有していること。

(3) NEDOが事業を推進する上で必要とする措置を、委託契約に基づき適切に遂行できる体制を有していること。

7. 提案書類の提出(期限、提出先、必要事項、他) (1/5)

公募要領に従って「提案書」を作成し、その他添付書類とともに提案書類として以下の提出期限までに電子申請システム「Jグランツ」で申請完了させてください。

なお、持参、郵送、FAX又は電子メールによる提出は(原則)受け付けません。

(1) 提出期限

2026年7月23日(木)正午 申請完了

※ 応募状況等により、公募期間を延長する場合があります。

公募期間を延長する場合は、NEDOウェブサイトでお知らせいたします。

※ NEDO公式SNSをフォローいただくと、ウェブサイトに掲載された最新の公募情報に関するお知らせをSNSで確認できます。是非、フォローいただき、ご活用ください。

<https://www.nedo.go.jp/nedomail/index.html>

(2) 提出先:Jグランツ公募ページ申請URL

<https://www.jgrants-portal.go.jp/subsidy/a0WJ200000CDbKSMA1?wfid=a0XJ20000077jmDMAQ>

7. 提案書類の提出(期限、提出先、必要事項、他) (2/5)

(3) 提出方法

- 電子申請システム「Jグランツ」上で、必要項目を入力し提出書類をアップロードした上で申請してください。複数法人による共同提案を行う場合は、代表法人が提出書類を取りまとめの上、代表法人が申請を行ってください。代表法人以外の法人のJグランツ上の申請は不要です。
- Jグランツの使用にあたっては、事前にGビズIDの「GビズIDプライムアカウント」または「GビズIDメンバーアカウント」が必要です。GビズIDの取得は2週間以上かかる場合もあるため、GビズIDを未取得であれば余裕をもって登録手続きを行ってください。
- Jグランツで申請操作完了後、システムから自動送信メールが届きます。申請内容や提出書類に不備がある場合は、修正等の対応をお願いする場合がありますので、NEDO担当者の指示に従ってください。
- その他GビズIDの取得やJグランツ利用・申請にあたっては、以下のウェブサイトをご確認ください。
- 【参考】NEDO事業の公募におけるJグランツでの応募受付について

https://www.nedo.go.jp/koubo/ZZAN_100061.html

7. 提案書類の提出(期限、提出先、必要事項、他) (3/5)

(4) 提案書類

提案書類には、次の資料又はこれに準ずるものを添付してください。

提出書類
提出書類のチェックリスト
別添1：提案書
別添2：提案者情報
別添3：NEDO事業遂行上に係る情報管理体制の確認票及び対応エビデンス
別添4：全研究員の研究経歴書
直近の事業報告書 直近3年分の財務諸表（原則、円単位：貸借対照表、損益計算書）

7. 提案書類の提出(期限、提出先、必要事項、他) (4/5)

(5) 注意事項

- 提案は、一企業等の単独、又は複数企業等の共同のいずれでも結構です。
注:共同提案の場合、参画者の役割分担を明示して下さい。
- 再委託を行う場合には、提案書に、「再委託の理由及びその内容」を記載ください。
- 委託先選定に係る審査は、受理した提案書類、添付資料等に基づいて行いますが、必要に応じてヒアリングや追加資料の提出等を求める場合があります。
- 新規に調査委託契約を締結するときは、最新の調査委託契約約款を適用します。
また、委託業務の事務処理については、NEDOが提示する事務処理マニュアルに基づき実施していただきます。
- 再提出は受付期間内であれば何度でも可能です。
同一の提案者から複数の提案書類が提出された場合は、最後の提出のみを有効とします。
- 提案書作成上の注意に記載の通り、提案書の全体の枚数は30ページ以内で記載ください。
本調査に従事する各研究員については氏名の後に本調査実施にコミットするエフォート率(%)を必ず記載ください。また、本調査に従事する主要担当者(コア人材)を明示すること。
コア人材が従事した本事業に最も関連性の高い調査実績に係る成果報告書(一部抜粋可)1件について、別添の上、ご提出をお願いします。

7. 提案書類の提出(期限、提出先、必要事項、他) (5/5)

(5) 注意事項 (続き)

- 万が一、応募者の責に依らない理由(例:組織形態上、G ビズIDの取得がそもそも不可でJグランツが利用できない、Jグランツ等の外部システムの障害発生により申請ができない 等)により、提出期限までにJグランツ上の申請が困難な場合には、**提出期限前までに必ず NEDO 担当者まで連絡し、NEDO 担当者の指示に従ってください。**
- Jグランツ上にアップロードするファイルは提出書類毎に作成し、一つの zipファイルにまとめてください。なお、アップロードするファイル(PDF、zip 等)にはパスワードは付けないでください。
- アップロードされたファイルにおいて、ウイルス検知又はその疑い等があると当機構が判断した場合は、調査のため第三者へファイルの提供を行う場合がありますので、あらかじめご了承ください。
- 公正な審査を行うための**利害関係の確認**として、Jグランツ上で以下の項目について入力を求めていますので、あらかじめご了承ください。

■入力項目

- ① 代表法人名称及び共同提案法人名称(共同提案の場合は、提案法人名を列記)
- ② 提案概要(300 文字以内)
- ③ 提案内容・手法のポイント(600 文字以内)
- ④ 責任者名(所属部署・職名含む)(法人ごとに列記。責任者は業務管理者を指す。)
- ⑤ 利害関係者

8. 採択先の選定

以下の審査基準に基づき提案書類を審査します。

なお、審査の経過等に関するお問い合わせには応じられませんのであらかじめ御了承ください。

- i. 提案の適合性
(NEDOの意図に合致しているか 等)
- ii. 提案の具体性・優位性
(提案に具体性があるか、提案に独自性があるか、提案に優位性があるか 等)
- iii. 期待される成果
(最終目標とする成果物が明確か、多くの優れた成果が期待され、将来のフロンティア領域の特定に繋がる可能性が高いか 等)
- iv. 実施体制・能力
(本調査実施に必要な知見と高い能力を有する人員がアサインされているか、役割分担が明確で適切な遂行体制か、関連分野の調査実績を有するか等)
- v. 提案の経済性
(予算の範囲内で適切に計上し、妥当な予算規模か、期待される成果を踏まえ費用対効果が高い 等)
- vi. 経営基盤
(経営状況は良好か 等)
- vii. 総合評価

採択した案件(実施者名、事業概要)はNEDOのウェブサイト等で公開します。

不採択とした案件については、その旨を不採択とした理由とともに提案者へ通知します。

9. 公募スケジュール

2026年		
7/2(木)		公募開始
7/8(水)	14:00～14:30	公募説明会（本日）

7/9(木)～ 7/13(月)17時まで	事前相談受付期間
7/16(木)10時～17時、7/17(金)13時～17時まで	事前相談

7/23 (木)	公募締切(正午までに提出)
----------	---------------

8/上旬頃まで	採択先決定、採択・不採択の通知
---------	-----------------

8/中旬頃まで	結果のウェブサイト上での公表
---------	----------------

10. 留意事項、連絡先

本調査の実施にあたっては、以下の点に留意すること。

- 本仕様書にて、例示を記載したものについては、記載した例に限定せず、調査目的の達成に資する有望な分析、評価、整理となるよう、独自の工夫や観点に基づく積極的な改善の提案とそれに基づく実施を期待する。
- 調査にあたり有識者等へのヒアリングを実施する場合は、協議の上で決定するものとし、NEDOの同席も可能とすること。
- 対面またはオンライン会議等により、月に1回以上、NEDOに対して進捗報告すること。
- 過去に実施済みの公的予算を用いた調査で成果報告書が入手可能なものについては当該内容を確認の上、重複の無いように調査を実施すること。
- 本仕様書に定めなき事項については、NEDO と実施者が協議の上で決定すること。

- 連絡先

本公募に関するお問い合わせは、以下の問い合わせ先までE-mailでお願いします。

国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構

イノベーション戦略センター デジタルユニット

E-mail: [tsc-digital-u\[*\]ml.nedo.go.jp](mailto:tsc-digital-u[*]ml.nedo.go.jp) ※[*]を@に変えてください

想定Q&A

Q1. フロンティア領域の粒度感や予算規模はどの程度か。

A1. 2026年度に実施したフロンティア育成事業の説明会資料を参考にしてください。

<https://www.nedo.go.jp/content/800048918.pdf>

Q2. 個別の事前相談会は、提案予定内容を説明し、それに対するFeedbackをもらうことは可能か。

A2. 主に公募要領や仕様書等に合致しているか等の観点からのFeedbackは可能ですが、審査や評価に関わるコメントは致しません。

Q3. 主要担当者(コア人材)は複数名登録することは可能か。

A3. コア人材とは本提案調査の成果に最も主要な貢献とインパクトを及ぼす者を意味します。基本的にエフォート率が高い者をイメージしますが、同レベルの貢献が見込まれるコア人材が複数名参加する場合は複数名登録することも可とします。本記載方法について、事前相談会にてご相談頂くことも可能です。

Q4. コア人材の評価について、単価が低い研究員をエフォート率高く、多数登録した方が評価が高いのか、それとも単価は高くても高い能力を持つ者を少数登録した方がいいのか。

A4. 公募要領P6の「(2)審査基準」のうち、「iv. 実施体制・能力」が主に関係すると思いますが、「必要な知見と高い能力を有する人員」かどうかという「質」の観点と当該研究員が「十分なエフォート」でアサインされているかという「量」の観点の掛け合わせで見て、総合的に評価することになります。最適な人員メンバー構成でご提案ください。

Q5. 既存資料(例:Innovation Outlook)の分析手法は踏襲する必要があるか。

A5. 最終的にMFTロジックで整理するところは踏襲が必要ですが、フロンティア領域の候補を導くための分析手法は既存のものを踏襲する必要はありません。独自の工夫や観点に基づくご提案を期待します。